高等部道徳科学習指導案 『自然と私たち』

**１　主題名**　自然を守り抜く　D-(20）　自然愛護

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・自然を守りぬく

・自然のすばらしさや不思議さを知り、心を豊かにする。

・自然環境を大切にすることについて考える。

（2）教材　　自然と私たち　（P94-97）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること　２０　自然愛護  自然の崇高さを知り，自然環境を大切にすることの意義を理解し，進んで自然の愛護に努めること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

地球の自然環境を支えているのは、植物の力で、植物が光合成を行ない、光（太陽エネルギー）と水や土（無機物）から、葉や実などの「有機物」を作り出すことで、あらゆる動物は食物を得ることができる。我々も自然からの食物やエネルギーをもらいながら生活をしているため、自然環境は生きていくうえで必要不可欠な存在である。

近年は、地球温暖化等の環境問題もメディアを通して多く取り扱われている。

本授業を通して、自然の中で生きていることを実感し、自然を守ることを自分の事として捉えることができるよう指導を行う。その中で、生徒が今からできることを自ら考え、実行できるよう留意する。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で書き表すことができる生徒を対象とする。字を書くことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆するなどの配慮を行う。吃音などの生徒がいる場合には、発表や協議の際に必要に応じて紙に書いて発表を行うなどの配慮も行う。

学校生活においては、職業でのニュース発表や理科の自然と災害と関連させて、「自然環境を大切にすることの意義を理解できるように指導していく。また、生命の大切さや尊さ，人間として生きることのすばらしさを踏まえた指導を行う。

（３）教材について【教材観】

　自然を「安らぎ」「食料」「環境破壊」「自然災害」という4つとして捉えられるよう写真、動画を入れながら指導を行う。環境破壊をより具体的な海洋プラスチック問題や、干ばつの様子を取り扱うことで自分たちに身近な話題として捉え、また自分の経験から発言がしやすいテーマを選択している。

また、環境問題を知るだけでなく、自分たちが今からできることを、話し合い活動を通して考えることで、日常から環境を意識した行動ができるよう繋げていく。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　教科書の拡大写真、モニター、タブレットPC等

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | 〇日本の美しい海、山、川などの動画を視聴する。  〇自分と自然との関わりはどんなところにあるか。  ・P97の写真にふれた活動をする。 | ・きれいだな  ・行ってみたい  ・見てみたい  ・これ日本ですか  ・ごはん  ・命を食べる  ・酸素の供給  ・太陽エネルギー | ・自分の経験上、自然との関りがあると思うことを発表する  ・難しい場合にはタブレットPCで調べる。  ☆自然は人が生きていくうえで必要不可欠なものであり、その重要性について理解する。  （知・技） |
| 展  開  ① |  | 〇教科書「自然と私たち」を読み、話し合う。  〇海洋プラスチック問題の写真を見て、どう思ったのか話し合う。  〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書P９６に記入をする。  〇干ばつの様子の写真を見て、どう思ったのか話し合う。  〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書P.９６に記入をする。 | 課題　自然と自分との関わりについて考えてみよう  ・かわいそう  ・人間のせいで自然が破壊されている  ・ウミガメが減っていってしまうのでは  ・食べ物が見当たらない  ・野菜も育たなそう  ・草や木などの緑がない | ・２～３人の班を作り、話し合い活動を行う。  ・写真の現状を見てどう思ったのか、班の中で感想を言い合う。  ・２～３人の班を作り、話し合い活動を行う。  ・写真の現状を見てどう思ったのか、班の中で感想を言い合う。  ・早く終わってしまった班は干ばつの原因を調べる。 |
| 展  開② |  | 〇美しい自然を守るために自分たちができることは何か話し合う。  〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書p９７に記入をする。  〇明日からできることは何があるか考える。 | 課題　美しい自然を守るために私たちができることは何か考えよう  ・ポイ捨てをしない  ・ごみを減らす  ・ごみ拾いをする  ・給食を残さない  ・ごみの分別をする  ・ごみを減らすためにペットボトルを買う機会を減らし、水筒を持ち歩く | ・２～３人の班を作り、話し合い活動を行う。  ・学校内、家庭内、外出時など場面ごとに分けてできることを考える。  ☆自然を守ることについて、自分たちが今からできることは何か考え、発表する。  （思・判・表） |
| 終  末 |  | 〇昔と今とで、自然に関することで変わったと感じることは何か。  〇教員の体験に関する説話例を話し、自然を大切にする心を育てる。 | ・電気自動車が増えた  ・夏が暑い | ・生徒の今までの経験の中で変化したと感じることを聞き出す。  ・動画や写真を見せて、実際の教師が体験してきたことを身近なこととして捉えられるようにする。 |

（4）終末での教師の説話例

沖縄県石垣島には、世界の8割の珊瑚が存在するといわれています。その石垣島で、オニヒトデが大量発生したというニュースが流れました。人間も刺されると危ない危険生物でもあるため、地元のダイバーを中心に駆除が行われました。

オニヒトデがいなくなった後の海は変わり果てていました。鮮やかな色をしていた珊瑚礁は白化し、オニヒトデに食べられて壊滅していました。オニヒトデの発生は陸地の開発によって、生活排水や赤土などが海へ流出し、海水中の窒素やリンなどが増加することで、植物プランクトンが増加し、それを餌とするオニヒトデ幼生の生存率が上がり、成体の個体数が増加した事が原因です。自然が変わり果てていく実態を知りました。

その原因が、人間によるものと知った時には、とても悲しい気持ちになりました。

世の中が便利になるということは、そのぶん何かを失う可能性があることを知らないといけないけません。人間は、自然の中で生きていることを再確認し、現在及び未来の自然環境の課題を理解していく事が大切です。